

ドジョウとカラドジョウの簡単な見分け方



日本在来のドジョウと要注意外来生物のカラドジョウを簡単に見分けることができます。



左はドジョウ, 右はカラドジョウ。見た目だけでは分けることはできません。

準備するもの

ノギス

バット



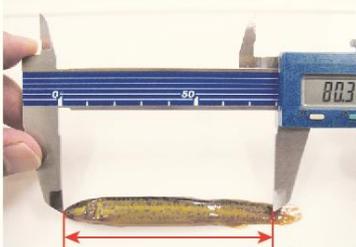
ティッシュペーパー

電卓

筆記用具

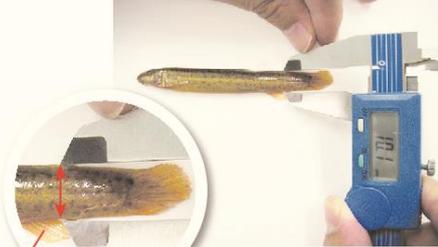
見分け方の手順

① 体長を測ります。



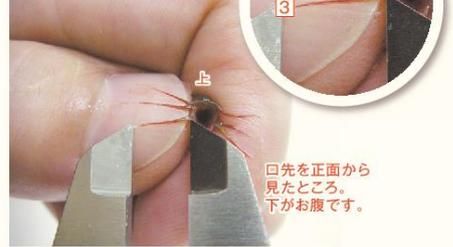
口先
おひれ
尾鰭を持ち上げた時に折れ曲がる場所。
尻鰭

② 尾柄高を測ります。



尻鰭後方の付け根から背まで。

③ 髭長を測ります。



上から③番目の髭を測ります。

口先を正面から見たところ。下がお腹です。

④ 式に代入します。

$$Y = (24.1 \times \text{尾柄高} + 72.1 \times \text{髭長}) \div \text{体長} - 8.140$$

Yが、

-0.467より小さい

ドジョウ

1.217より大きい

カラドジョウ

-0.467以上
~1.217以下

不明

写真の魚は
Y=1.46

カラドジョウ

カラドジョウだと
分かりました。



Q&A よくある質問

Q カラドジョウがいると良くないの？

A 大陸を原産とするカラドジョウは、ドジョウの消滅やドジョウとの交雑、大型鳥類の餌としても影響を及ぼすとされ、分布の拡大が懸念されています。

Q ドジョウとカラドジョウはどこに住んでいるの？

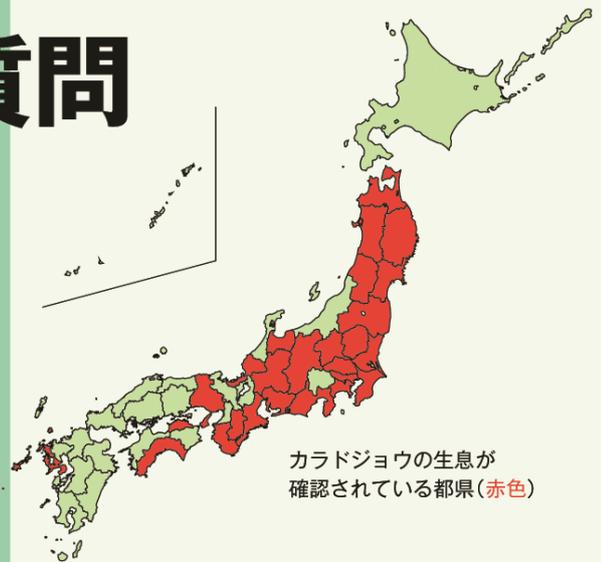
A 東北から九州にかけての26県で、ドジョウとカラドジョウの同所的な生息が、農業水路等で確認されています。(2011年現在)

Q これまでの見分け方は？

A 両種は体形が似るため、分類形質やDNA等の高度な分析技術を利用しなければ、区別できませんでした。

Q 式の特徴は？

A 魚体の3部位を計測するだけで、特別な分析技術が必要としません。本判別式の正答率は95.3%と極めて高い結果が得られました。



カラドジョウの生息が確認されている都県(赤色)



体形がよく似ているドジョウとカラドジョウ

式を使う時に計測する3部位



上から3番目の髭または最長のもの

$$Y = (24.1 \times \text{尾柄高} + 72.1 \times \text{髭長}) \div \text{体長} - 8.140$$

Yが、

-0.467より小さい

ドジョウ

1.217より大きい

カラドジョウ

-0.467以上
~1.217以下

不明

- 髭長を測る時に、ピンセットやつまようじがあると便利です。
- 個体を炭酸飲料に数分浸すと麻酔がかかります。
- カラドジョウが見つかった場合は他の場所に放さないで下さい。
- 見つけた場所などを下記までお知らせ下さい。

お問い合わせ先

農研機構 農村工学研究部門 水域環境ユニット

電話:029-838-7686 Fax:029-838-7609